

# I 平成22年大分市消費者物価指数の動向

## 1 概況

平成22年平均大分市消費者物価指数の総合指数は、平成17年を100として**99.8**となり、前年に比べ**1.4%**の下落となった。

近年の総合指数の動きを前年比で見ると、平成11年は前年に高騰した生鮮野菜の値下がりに加え、電気・ガス代や工業製品の値下がりなどにより0.7%の下落となった。12年は生鮮食品の値下がりに加え、耐久消費財や繊維製品などの工業製品の値下がりなどにより0.4%の下落となった。その後も耐久消費財などの値下がりが続き、13年は0.7%の下落、14年は1.1%の下落、15年は0.3%の下落、16年は0.1%の下落となった。17年は前年に高騰した米類・生鮮野菜などが値下がりしたことなどにより0.3%の下落となった。18年は原油高の影響などにより0.3%の上昇となった。19年は原油高の影響などによりガソリン代や外食などが値上がりしたが、耐久消費財の値下がりなどにより、前年と同水準となった。20年は、前年に引き続き原油高の影響などによりガソリン代・灯油や穀類などが大幅に値上がりしたため、前年に比べ1.4%の上昇となった。平成21年は20年に高騰した原油価格が下落した影響などにより、ガソリン代・灯油の値下がりに加え、耐久消費財などが値下がりしたため、前年に比べ0.5%の下落となった。

平成22年は、原油価格の上昇によりガソリン代・灯油などが値上がりしたものの、食料や授業料等の大幅な下落に加え、耐久消費財などが引き続き値下がりしたため、前年に比べ1.4%の下落と比較可能な昭和46年以降最大の下落幅となった。

総合指数と前年比の推移

